

2026年 いざ世界遺産登録へ！

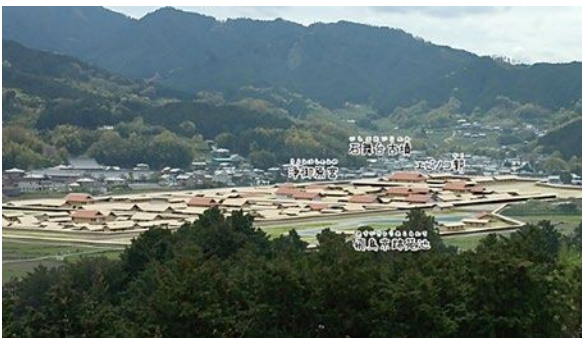
「飛鳥・藤原の宮都」の構成資産を紹介します

●飛鳥宮跡（あすかきゅうせき）



630～636年	あすかおかものみや 飛鳥岡本宮（舒明天皇）
643～645年	あすかいたぶきのみや 飛鳥板蓋宮（皇極天皇）
656～667年	のちのあすかおかものみや 後飛鳥岡本宮（斉明天皇）
672～694年	あすかきよみはらのみや 飛鳥浄御原宮（天武・持統天皇）

日本で初めて同じ場所に4時期の宮殿が建てられた場所です。政務や儀式を行う空間や施設が天皇の住まいと一緒に設置されているのも、日本で初めてです。



▲甘樫丘からの眺め（提供：株式会社アスカラボ）



▲飛鳥浄御原宮中枢部の復元模型
（提供：奈良文化財研究所）

天皇を中心とした政治を確立するために、積極的に東アジアの国々から技術や考え方を取り入れています。しかし、宮殿の建物は、瓦を使わない板葺きであったことから、従来の技術や考え方も合わさった初期段階の宮であったことがわかります。

●飛鳥京跡苑池（あすかきょうあとえんち）



飛鳥宮に附属する庭園の遺跡です。

南北に2つの池があり、石で造られた噴水や水槽が見つっています。

▲水を満たした南池（北から）
（提供：奈良県立橿原考古学研究所）



▲（提供：奈良県立橿原考古学研究所）
無断転載・複製禁止および改変禁止



▲南池 流水施設第1石吐水状況（北東から）
（提供：奈良県立橿原考古学研究所）

庭園は、中国や朝鮮半島の国々の宮都に見られる宮中の宴や外国使節の接待の場であっただけでなく、水を利用した祭祀の場でもありました。このことから、東アジアの技術・考え方と日本古来の信仰が合わさっていることがわかります。